地質ニュース

昭和56年12月　第328号　1981

銅の国　チリ……松久幸敬…6

対馬海峡をめぐる白亜系・第三系の地質学的問題
—その1—陸域部の地質比較……井上英二…23

日本地質アトラス……地質アトラス編集委員会…37

地質・資源情報の分散型データベース・システム……古宇田亮一…42

100万分の1日本地質図の
地質別面積測定を終えて……磯山功・斉藤英二・渡辺和明・橋本知昌…54

地質標本館だより

地質年代をはかる……柴田賢…58

龍神 RYŪJIN……徳岡隆夫・原田哲朗・井内美郎ほか8名…62

口絵　チュキカマタ鉱山……石原舜三…

編集　地質調査所

表紙の写真

発行　株式会社　実業公報社

緑塩銅鉱—塩に富む砂漠の産物

緑塩銅鉱は　英名 atacamite と呼ばれ　名の如く緑色の銅と塩素からなる二次鉱物で　塩素に富む乾燥地帯の銅鉱床の酸化帯に産出する．この鉱物は最初にチリ北部のアタカマ砂漠の砂粒から発見された．　一般には稀産鉱物であるが　この付近からペルーにかけての砂漠には極めて普通にみられる．チュキカマタ鉱床では酸化鉱体の主要構成鉱物の一つであって　銅鉱石として採掘対象となるほど産出する（グラビア参照）．分析によると　ほぼ Cn 15%，CnO 55%，Cl 17%，H_2O 13% の化学組成を持っている．

表紙の写真は　チュキカマタ鉱床からの溶脱銅が　河床礫中に沈殿して生成したエギゾチカ鉱床から得られた自形濃緑色の結晶である．　空色の珪孔雀石や白色の石膏などと共存している．　色からみて珪孔雀石には少量の他の銅二次鉱物が含まれている可能性がある．　緑塩銅鉱は我が国では　三宅島の火山昇華物と山形県大張銅鉱床の酸化帯から報告されている（桜井鉱物標本　1973）．

試料と文　石原舜三　　撮影　正井義郎